

これらを被覆する段丘堆積層は、厚さ1~2mで、坂下部落附近の最厚部で数mに過ぎない。試掘個所に於てみると、本層は砂礫層を主とし、その間に薄い砂層又は粘土層を夾んでいる。砂礫を構成する岩石は、砂岩・粘板岩・ミグマタイトを主とする。

#### V. 鑛床

本地域の砂金鉱床は、溪谷砂金と段丘砂金とからなる。

溪谷砂金は日方川の現河底中にあつて、金粒は、一般に段丘砂金よりも大粒のものが採取されることが多く、雨後には特に河底中の一部に集積されるという。

河底の幅は一般に数十m以下であり、又巨大な礫の累積が著しく、砂金の分布は極めて不規則なため、副業的に採取する外はない。

段丘砂金は、主として坂下部落より滝の沢に至る間のものが、嘗つて採取された。これに反し、最上位段丘及び葎原野は、未だ試掘されたことがないため、鉱床の存否は全く不明である。

本期間中には、滝の沢及び坂下部落鈴木正作氏宅裏を試掘した。排水作業困難のため、何れも基盤に到達しなかつた(基盤上数十cm内外までは掘下げた見込であるが)ため、層序及び正確な含金量は明かではないが、大略は次の通りである。

(A) 瀧の澤 表土0.2m下に、厚さ1m以上の含金砂礫層があり、この部を搔板によつて淘汰した所、1立坪当り2.9g程度の含金を認めた。金粒は純度800内外で、稜角のない扁平な形を示し、大きさは多くは、0.5mm×0.5mm×0.1mmである。

(B) 鈴木正作氏宅裏 表土数十cm下に、厚さ1mの砂礫層があり、その下位に厚さ1m以上の含金砂礫層がある。これを淘汰した所、1立坪当り3g程度の含金を認めた。金粒の純度・形及び大きさは、略滝の沢産のものと同様であるが、その一つに、3mm×5mm×0.2mmの板状のものがあつた。

以上の二個所に於ける淘汰試験では、(1) 基盤直上の

部分を試験し得なかつたこと、(2) 処理量が少ないことのため、その結果得た数字は、そのまま各地点に於ける鉱床の歩留りとする事は不適當であるが、大略の桁数と最低限界を示すものと解釈し得るものと思われる。随つて両地点とも、一立坪当り3~10g程度とみて大過はないものであろう。

鉱量については、試掘個所が2個所に限られた爲、段丘堆積物中の金筋 pay streak の分布、規模については現在の所不明で、これを予想し得ない。

#### VI. 結論

本地域の砂金鉱床は、溪谷砂金と段丘砂金とよりなりその中溪谷砂金は分布が不規則小規模で企業の対象とはなし得ない。随つて今回の踏査対象も、自から段丘砂金に向けられた。

本期間中には、広大な段丘地帯中の2カ所の試掘に過ぎないため、金筋の分布・規模及び歩留りは、今後の調査結果に待つ外はない。

今回知り得たことより結論すれば、まず歩留りは両試掘個所に於ては1立坪3~10gと見込み得るので、本地域の鉱床は品位の点では期待し得るものがある。

鉱量の点より見ると、第2段丘以下のものは堆積物薄く、随つて鉱量は少いため、小規模採行の外はない。

未探鉱の最上位段丘は、広大な地域を占め、更に堆積物の厚さも少々大きいので、この段丘中の砂金の有無及び規模が、この地域の企業価値を決定するものである。

現在の所、これに対しては全く資料がなく、更に探掘法、選鉱用水、農地等困難な問題の解決を要するので、今後の調査で充分検討した上、企業価値を判断すべきである。

聞く所によれば、本溪谷の南4kmにて、これと平行して東流する中川流域の砂金鉱床が有望視されるので、これを含めて広地域に亘る概査(ねこ流しを併用する)を、融雪を待つて行う必要があるものと思われる。(昭和24年1月)

553. 673 : 550. 8 (521. 12)

### 岩手縣宮寺附近及び夏山滑石鉱床概査報告

坪谷 幸六\*

Résumé

by

Talc Deposits from Miyamori and  
Natsuyama, Iwate Prefecture.

Kōroku Tsuboya

Talc deposit of the Miyamori district is  
the largest of the deposits of Tōhoku Region

\* 元鉱床部長

and the ore is considerably high grade  $Fe_2O_3$  5.81%. The Natsuyama deposit is the vein in serpentine, the highest of Japan in ore grade —  $Fe_2O_3$  2.81%, and desirable to be prospected.

## I. 宮守附近滑石鑛床

### 1) 緒言

昭和23年6月18日から20日迄の3日間に亘つて宮守附近の鉱床を、22, 23の両日夏山鉱床を調査したので、その結果を報告する。現地調査には富田光孝を同行した。調査には終始、宮守鉱山主大久保一佐氏及び平牛俊夫氏等の案内を得且つ多くの便宜を與えられた。茲に記して感謝の意を表する。

- (イ) 宮守鉱山 岩手縣上閉伊郡宮守村  
經營者 大久保一佐(福島縣若松市南町402)
- (ロ) 岩根橋鉱業所 岩手縣上閉伊郡宮守村  
經營者 國峯鉱化工業株式会社
- (ハ) 北日本鉱業所 同縣同郡鱒沢村柏木平  
經營者 千葉勝藏

### 2) 沿革

宮守鉱山は会津若松の朝日石膏鉱山主の所有であつて、終戦後専ら石膏の開発に従事したが、本邦に於ける滑石の不足に鑑み、宮守村に滑石鉱床のあるのを聞いて始めて之を探查し、昭和21年より稼行し出鉱するに至つたが、翌22年秋の大洪水の折、その施設の一部と共

に鉱石の大半を流失した。23年6月には再び施設を完備し、従業員をも増加して出鉱を見るに至つた。

宮守鉱山が開発されると前後して岩根橋附近に國峯鉱化工業株式会社は露頭を発見し、之亦出鉱するに至つた。北日本鉱業所は露頭探鉱のみを行つて今日に至つている。

### 3) 位置、交通及び地形

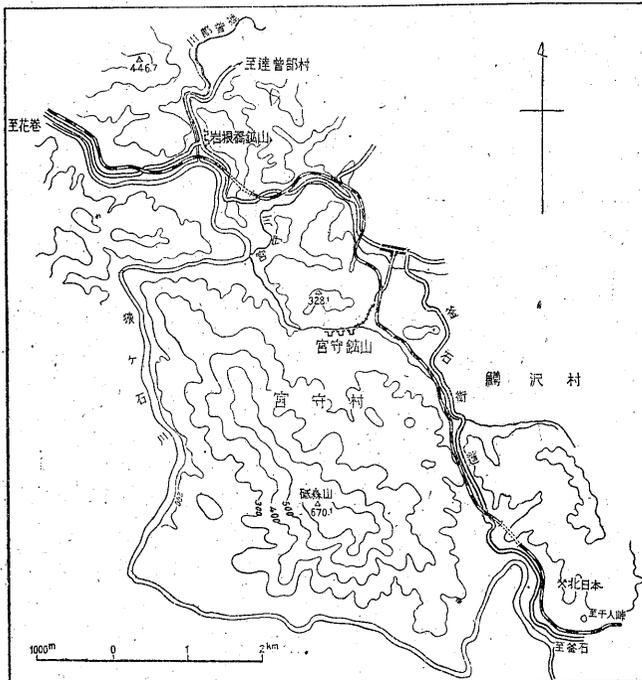
宮守は岩手縣上閉伊郡に在り、山元から駅途中まで700mは馬車軌道、それより馬車を通じ得。岩根橋は駅より現場迄は縣道に沿ひ貨物自動車を通じ、何れも交通運搬は至便である。冬季は積雪は多いが、馬糞利用可能で、鉱石の搬出にも支障を来すことはない。附近は丘陵性の地貌を呈し、鉱床は何れも岸に露出するので、開発するには寧ろ低きに過ぎる嫌がある。(第1図参照)

### 4) 地質及び鑛床

宮守を中心として南北略30km、東西略5km以上に達する本邦には稀に見る広域を占めて蛇紋岩が侵入する。同岩は塊状で殆んど節理の見られるものはない。方向東西に近い断層は屢々同岩を切断する。滑石鉱床はすべて蛇紋岩中に胚胎し、或ものはその一部を交代し、或ものは断層に沿うて脈状に発達する。主要の鉱床は宮守、岩根橋で、その他2, 3の小脈があり、そのうち探鉱されたものもあるが、稼行されるに至らず休山している。以下主要鉱床に就いて述べる。

a) 宮守鑛床 宮守駅の南南西2km、猿石川～支流の南岸に在り、蛇紋岩が滑石化した塊状鉱床で、その延長方向は東西であり、その方向に40m以上繼續する。この部分に略10m間隔で3本の鑛入坑道を設けて、東からそれぞれ20m, 5m, 10m掘進し、探鉱すると共に採掘を行ふ。坑道地並から10mの上部は一部は水田であるので、上部への探掘は注意を要するが、水田のない場所では8mは上部へ切上り採掘可能である。西方の丘陵地には良質滑石の露頭が見られ、これと現稼行鉱床と果して連続するか否かは更に探鉱に俟たねばならぬが、同一鉱床とすれば相当量の鉱量は推定出来る。他に2カ所脈状の露頭があるが、川底に露出し、又脈幅も狭いので今のところ稼行の対象とはならない。

b) 岩根橋鑛床 岩根橋駅東方約700m、達曾部川に架した橋の東岸に在り、走向N70°W、傾斜70°~80°Nの断層に沿うて蛇紋岩が侵されて発達した脈状鉱床で、1号坑、2号坑を以て錘押しし各々延長60mに達する。脈幅は膨縮はあるが、広い部分では2m



第1圖 宮守、岩根橋、北日本鑛山位置交通圖

に及ぶ。他にも断層に沿う脈があつて探鉱されたが、著しいものは現在発見されていない。

c) 北日本鑛床 柏木平駅の東方300mの丘陵地に発見される。蛇紋岩の交代された脈状鉱床で、走向N45°W、傾斜30°NEで脈幅露頭部で1.2m、一部探掘したが、調査当時は農繁期の爲に休山の状態であつた。

### 5) 品位及び鉱量

各鉱床の鉱石の性質、分析結果及び鉱量は次の通りである。

a) 宮守鑛床 従来出鉱した鉱石は露頭部に近く多少赤褐色を帯び、又蛇紋岩の一部も混交するので少々不純であつたが、坑内深部に進むにつれ褐色は失せ、淡緑色亜透明の鉱石となつた。手選を施し、蛇紋岩の不純物を除去したものの分析結果は

SiO <sub>2</sub>	56.74 %	MgO	28.85 %
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	1.87	CaO	1.12
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	5.81	Ig. Loss	5.66
FeO	—	Total	100.05

(分析者 地質調査所分析試験課 関根節郎)

である。鉄分は少々多いが薬業原料以外には充分使用出来る。

推定鉱量は現探掘箇所延長40m、幅30m、高低6m、鉱石の比重を2.6とすれば、

$$40 \times 30 \times 6 \times 2.6 = 18,720 \text{ t} \approx 1.9 \times 10^4 \text{ t}$$

となり、此選鉱実收率を60%と見れば推定精鉱量約11,000tとなる。西部丘陵地松ノ木下の露頭の鉱量は未知であるが之の探鉱結果如何によつては鉱量は更に加わるものである。

b) 岩根橋鑛床 脈幅平均1m、延長50m、高低10m、比重2.6とすれば

$$50 \times 10 \times 1 \times 2.6 = 1300 \text{ t}$$

の推定鉱量となる。鉱石は淡青緑色で、なお完全に滑石化しない部分も混ざるので選鉱は充分行ふ必要がある。

採取品の分析値は、

SiO <sub>2</sub>	54.42 %	K <sub>2</sub> O	0.00 %
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	1.17	Na <sub>2</sub> O	0.03
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	7.24	Ig. Loss	7.28
MgO	26.94	Total	99.98
CaO	2.90		

(分析者 地質調査所 関根節郎)

であり、鉄分が甚だ多量であるので、特殊の用途以外には使用出来ないであろう。尤も経営者國峯鉱化工業会社は西那須野に自家製粉工場を所有するので、然るべき用途に向けつゝあるものであろう。

c) 北日本鑛床 探鉱なお不充分で鉱量を算出し得るに至らない。脈の品質佳良の部60cmあり、少々劣る部を併せて1.2mとなり、錘押し切上りをなせば多少の鉱

量は見られるであろう。

### 6) 調査當時の情況

a) 宮守鑛床 昭和22年度秋の未曾有の大洪水は馬車軌道700mのうち200m、貯鉱の大部分を流失させ、多大の損害を受けこの復旧に23年6月迄を費したが、同6月は既に65tの出鉱を見ていた。本格的に探掘にかゝれば1日の出鉱量5t、1ヵ月140tの出鉱は可能であろう。當時の出鉱先は東京中野の浅田製粉会社其他でその販路を拡張中であつた。

b) 岩根橋鑛床 昭和21年9月から探掘を開始、22年度は2ヵ月休山したが、その後は稼行を継続し22年度出鉱量800t

23年度	3月	4月	5月	6月(19日現在)
	100 t	90 t	112 t	64 t

の出鉱を見、月産平均100t、これを西那須の精粉工場で製粉、主として日東紡績へ販賣していた。運搬は至便である。

c) 北日本鑛床 僅かに50tを見本として出鉱したに過ぎない。

### 7) 結言及び意見

宮守附近の蛇紋岩は大規模に露出するが、滑石に交代され鉱床を形成している箇所は比較的少い。即ち、宮守では少々纏つて交代され、1万tを超える鉱床が見られ、岩根橋、北日本ではこれに比較すれば規模極めて小さいものが発見されている丈である。宮守は運搬にも便、月産100t以上の出鉱は可能である。只開発に當つて下部へ進んで出水に悩むこと、上部へ掘り上り過ぎて水田の水を吸収することは嚴に注意すべきである。又不純の蛇紋岩が鉱石に随伴するので充分の選鉱を必要とする。

東北地方に於ての滑石鉱床は此地方と岩手縣東磐井郡に発見されているのみであるが、今後蛇紋岩地帯の調査によつては更に発見される可能性はある。

## II. 夏山滑石鑛床

### 1. 沿革

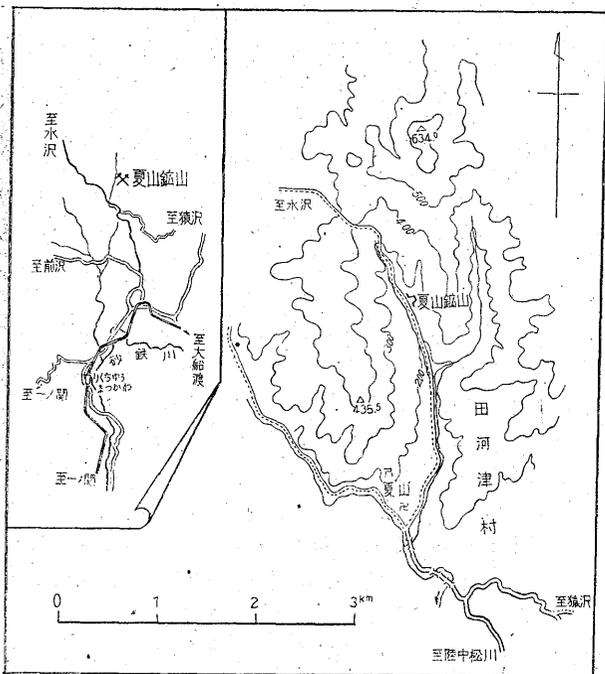
土地の者が滑石露頭のあることを発見し、それが極めて良質なることから大久保一佐氏の入手するところとなり、昭和22年探鉱したが発展せずに当時に至つていた。

### 2. 位置、交通及び地形

夏山は岩手縣東磐井郡田河津村に在り、大船渡線陸中松代駅に下車し、それより北方へ徒歩10kmにて達し得る。途中横沢迄は貨物自動車も通ずる。大鉢森山(634m)の南に延びる尾根の北斜面にあり、附近は丘陵性地勢をなす(第2図参照)。

### 3. 地質、鑛床及び鑛石品位

附近は古生層の頁岩と之を貫く蛇紋岩より成り、滑石鉱床は蛇紋岩を脈状に貫いて発達する。丘陵部の頂に近



第2圖 夏山鉾山位置交通圖

くその露頭があり。延長5m、幅2m、走向N20°E、傾斜70°NWで鉾石はクリーム色を帯び局部的に褐色に汚染される。露頭下部へ向け7m、下部から鑿入坑道17

mを掘鑿して幅6cmのものにあたる。この部の鉾石は純白に近いが、少々淡緑を帯びる。

これが分析の結果は

SiO <sub>2</sub>	60.06%	K <sub>2</sub> O	0.00%
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.41	Na <sub>2</sub> O	0.00
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	2.61	Ig. Loss	5.30
MgO	31.46	Total	100.10
CaO	0.32		

(分析者 地質調査所 関根節郎)

で鉄分の少いことは本邦産中随一である。満洲産滑石には多少劣るが、或は窯業方面の使用に耐えるか目下之が試験を依頼中である。

#### 4. 現況

調査当時迄休山していたが、露頭の延長方向及び下部へ鉾石が継続せぬか、或は他に同様の露頭なきかと期待して鋭意探鉾中であつた。又鉾石の一部を窯業会社へ送つて使用試験依頼中であつた。

#### 5. 結言

夏山鉾床は今なお鉾床の規模は小であるが、本邦の多くの滑石中品位に於て、この右に出ずるものはないので、充分の鉾量が得られる様に露頭の延長、

下部は勿論附近に同種の露頭発見に努むべきである。

(昭和23年6月調査)

553. 673 : 550. 8 (523. 4)

### 愛媛縣船木滑石鉾床概査報告

坪谷 幸六

Résumé

#### Talc Deposit from Funaki, Ehime Prefecture.

by

Kōroku Tsuboya

Talc deposit at Funaki-mura, Ehime prefecture is situated to the east of Besshi Miné. It is the replacement vein in serpentinite mass and supposed to have considerably large ore reserve.

#### 1. 序言

昭和23年4月15、16の両日東邦タルク株式会社船木鉾業所の滑石鉾床を概査したので、以下報告する。調査

には菊池徹及び富田光孝を同行した。調査に当つては鉾業所長秋吉郷造氏、鉾業権者武吉律義氏を始め船木村合田助役の好意に浴した。此処に記して深甚の謝意を表する。なお本調査は窯業原料協議会との共同調査の一部である。

#### 2. 沿革

船木村の山地には明治年代石筆材を採掘した場所の在ることは土地の古老の知る処であつたが、昭和22年末東邦タルク株式会社は之を知り土地の有力者の協力を得、今年に入つて種子川及び中尾谷の露頭並に旧坑を発見し直に之を稼行する計画を樹て、採掘に着手した。同時に搬出に必要な資材の蒐集も行い、調査当時は鋭意露頭下部の探鉾採掘に取掛つていたのである。

#### 3. 位置、交通及び地勢

鉾山名 東邦タルク株式会社船木鉾業所  
鉾区 愛媛縣試登 申請中